

148 回 稲門フィラテリー切手教室 レジュメ

2019 年 2 月 2 日

パクボウ便

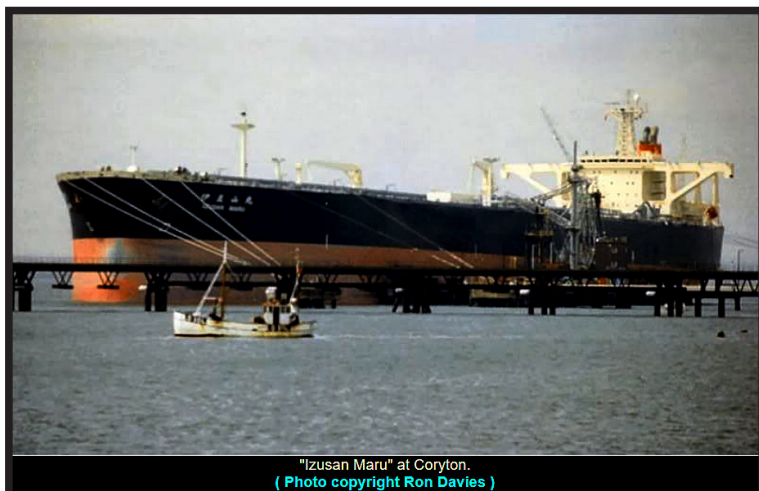
水谷 勇

日本郵趣協会正会員

関東郵趣サロン研究会会員



アブダビ



伊豆山丸

- (1) はじめに
- (2) パクボウ便の生い立ちと経緯
- (3) パクボウ便の言葉の由来 (表 3 参照)
- (4) 船舶郵便の分類 (表 1 参照)
- (5) 船内郵便局の有無と取扱地域区分
(表 2 参照)
- (6) パクボウ便の実例紹介
 - 1) 船舶郵便としての Paquebot 表示
 - 2) 日本切手に外国郵政の消印
 - 3) 外国切手に第 3 国の郵政消印
- (7) 楽しみ方と集め方
- (8) 主な参照文献 (表 5 参照)
- (9) まとめと質疑応答
- (10) 添付資料 (表 1,2,3,4,5)

補足説明 ― 「船舶郵便」と「パクボー便」の関係

パクボー便はそもそも「船舶郵便 (Posted On Board, 船舶内で発送取扱いされた郵便物の総称)」の一種で分類すると表1のように位置づけられます。又 船内局の有無により取扱い区分が異なりますが、明細は表2の通りです。

表1 船舶郵便 (Posted On Board) の種類

船内郵便 (Sea Post Mail)	船内に郵便局が設置されている船舶内で取り扱われて、船内局日付印で消印され発送される郵便物
艦内郵便 (Naval Mail)	艦内に郵便局が設置されている海軍所属の艦船、いわゆる軍用船から、その艦内局の日付印で消印され、発送される郵便物
船函郵便 (Paquebot Mail)	船内に郵便局が設置されていない商船のポストに公海上で投函され、航海中発送された郵便であることを、船長または船内郵便責任者が証明することによって、入港地の最寄りの郵便局に引き継がれ、消印、発送される郵便物

表2 船内郵便局の有無と取扱い地域区分

	自国領内	公海	外国寄港地
船内局のある船舶	開局	開局	閉局
船内局のない船舶	自国局へ差出し	自国で投函と同様扱い (パクボー)	寄港地局へ差出し

更にパクボー便を具体的に申しますと、日本切手の上に外国局で消印された郵便物を現し、これらは公海上にある船舶内で投函された郵便物とみなされるものです。
公海上にある船舶内で差し出された郵便物にはその船舶の所属する国の切手が貼られ、料金もその国のものが適用されることに「万国郵便条約」に取り決められています。
船内に郵便局のある船舶（最近では豪華客船以外には極めて少ないそうですが）では差し出された郵便物は消印され、郵袋に入れて受渡局に引き継がれるのが通例でした。しかし、船内局が無い場合は寄港地が便宜を図り、船内での投函の証左があれば、寄港地局で消印した上で、郵便物としての引受扱いをして、ここに外地使用が発生して「パクボー便」の誕生となります。

当初パクボー便の押印表示は「PAQUEBOT」「PACKET BOAT」「NAVIRE」「SHIP」「船函」「船集」などでしたが、現在では「PAQUEBOT」にほぼ統一されています。現在ではパクボー便の存在すら一般には知られてなく、海外旅行者もその殆どが航空機利用が前提で、極く一部の人が豪華客船を利用したとしても、見慣れた自国（日本）の切手より、珍しい、美しい外国切手を数多く貼る方に関心が高く、受け取る方にも喜ばれることから、ますますパクボー便の利用は少なく、従ってその収集も難しくなる一方のようです。

表3 パクボウ便の用語の解説

(1) 「パクボウ」[PAQUEBOT]

公海上にある外国航路の船内で投函された郵便物を、最初の寄港地であることを証明するために押される“PAQUEBOT”の表示印をパクボウ印といい、最初の寄港地の受入局で押される。 船内は自国の領土とみなせるので、郵便物には船の所有国の切手が使われる。

——船舶郵便印

(2) 「船舶郵便物印」

船によって運ばれた郵便物に押された郵便印の総称。 船内局印のほか海運会社の名前、出発地や目的地、船名の表示、日本の手彫・小判切手に見られる抹消印の“SHIP”印、パクボウ印などがある。 切手発行以前から多用され、郵便史コレクションの重要な材料。

*** (1)、(2)とも日本郵趣協会「切手用語集」より。

(3) 「船舶郵便印」(オットオ・ホルヌク／図解切手収集百科事典より)

——郵便切手が発明される(1840)以前に使われ始めたものです。 ある場合にこれらは単に船舶郵便物であることを示すだけのものでした。或る時には海運会社の名前や、
出発地や目的地の港名や、その船の名前すらも加えられていました。

パクボウ[フランス語で郵便船、定期船の意味]という単語の入った証示印は非常によく見られます。多くの国々の軍艦は、それぞれ独自の郵便印を持ち、これにはその軍艦の番号、または名称が入っていました。

「パクボー便」

水谷 勇

実物を見る機会が少ないと云われる、日本切手に外国郵便局の消印が押された郵便物、パクボー便の実例をいくつか紹介します。公海上の船舶内で差し出された郵便物は、その船舶が帰属する國の切手が貼られ、料金もその國の規定が適用されることが万国郵便条約で取り決められています。船内局の無い船舶からの郵便物は最初の寄港地の郵便局に渡され、その局で消印され、外地使用が発生し、これが「パクボー便」と呼ばれるものです。私の収友の一人、パクボー専門家、富山在住の稲谷昌則氏に世界各地からお送り頂いたもの、並びに一般郵趣市場で得られた海外のパクボー便の実例をご覧下さい。



表4 バックボウ便の押印表示例と変遷

- 1) 初期 Paquebot (フランス語; 郵便船、定期船)
 Navire (フランス語; 船, 艦)
 Ship
 船函
 船集
 P a c k e t B o a t

- 2) 現在 PAQUEBOT にほぼ統一。

* 1891年 Wien での第4回 UPU 会議で Paquebot 統一化. の協議。

** 1894年 日本での Paquebot 扱い使用開始。

表5 主な参考文献

- 1) Paquebot Cancellations of The World by Roger Hosking.
 英国 Cavendish 社刊、第3版、2000年発行。
- 2) 「カバア研究」Vol.3, No.12 1974年7月。
 「バックボウ便入門」 稲谷 昌則。
- 3) 「カバア研究」Vol.25-26, 1991-1992年、
 「Paquebot 郵便小論」 李 昌性
- 4) YUSHU 1955-1956
 「船の郵便印」 中尾 雄三。

日本切手に外国郵政の消印あり

PAQUEBOT

BUSAN, KOREA 釜山



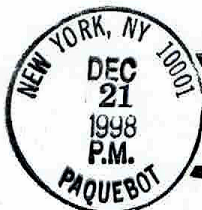
PAQUEBOT

Yosu, KOREA 麗水



②

2



Greeting Card
PRINTED MATTER

BY AIR MAIL 航空
PAR AVION

Mr. D. Eguchi
Poste Restante
Kawaguchi-kotobukicho P.O.
Kawaguchi 332 Japan

PAQUEBOT 日本切手に USA, NEW YORK 消印 1998 DEC. 21 PM
丸型 PAQUEBOT 入日付印は文庫 (#2065) に一致、郵名なし。



PAR AVION

PRINTED MATTER

Greeting Card

Mr. S. Sakai 川口郵便局
Poste Restante 留番
Kawaguchi-kotobukicho P.O.
Kawaguchi 332 Japan

PAQUEBOT 日本切手に USA, HOUSTON 消印 1998 DEC 23 PM
丸型 PAQUEBOT 日付印は文庫 (#1944) に一致 郵名なし
落消局に陸上局の二重消印

PS: この2通のカードは同一発信者から送ったが、船乗組員に225
N.Y. ~ HOUSTON 間を2日間で到着したと知らず、要諦が不明

高瀬丸の資料を見つけました。

担当幹事がレジュメに追加させていただきました。



高瀬丸 TAKASE MARU (1970)



109749/JBPP 油槽船 111,651G/T 226,950D/W

起工 1970.4.1(昭 45) 進水 1970.7.4(昭 45) 竣工 1970.11.9(昭 45)

Lpp 304.00 B 52.40 D 24.60 m 主機 T 2 段減速 三菱長崎 36,700PS 1 基

三菱重工業株式会社長崎造船所 (長崎) 建造 Sno.1676 日本郵船株式会社 (東京)

高瀬丸 TAKASE MARU 26 次

1970(昭 45) 太平洋海運 (株) (東京) と共有

1984.11.21(昭 59) 解体のため Hyundai Corp., South Korea に売却、Hyundai, Ulsan に到着